

PAIN REHABILITATION

「ペインリハビリテーション」

第25回 日本ペインリハビリテーション学会学術大会
プログラム・抄録集

Vol.11

No.2 2021

第25回 日本ペインリハビリテーション学会 学術大会

プログラム・抄録集

テーマ 難治性疼痛への挑戦

会期 2021年 5月15日(土)・16日(日)

会場 オンライン開催

大会長 平川 善之
福岡リハビリテーション病院 リハビリテーション部

巻 頭 言



第25回日本ペインリハビリテーション学会学術大会

大会長 平川 善之 福岡リハビリテーション病院
リハビリテーション部

謹 啓

このたび、2021年5月15日(土)・16日(日)の2日間、第25回日本ペインリハビリテーション学会学術大会を開催させて頂くことを誠に光栄に存じます。本学術大会では「難治性疼痛への挑戦」をテーマに、痛みの難治化に対する予防と対策について、現時点での適応と限界そして次に解決すべき課題について議論したいと考えております。

本大会プログラムは、大会長講演、特別講演1・2、シンポジウム1・2、教育講演ならびに一般演題などを準備しました。特別講演1では池内昌彦先生(高知大学医学部 整形外科)より「運動器慢性疼痛の病態と治療ターゲット」として変形性関節症の痛みの病態・評価と治療方法について最新の知見を元にご講演頂きます。特別講演2では平田仁先生(名古屋大学大学院 医学系研究科 総合医科学専攻 運動・形態外科学 人間拡張・手の外科学)より「難治性疼痛の病態と特性」としてCRPS等の難治性疼痛疾患の病態とその特性に関し最新の知見をご講演頂きます。また、シンポジウム1は「運動器の術後遷延性疼痛～病態から治療・予防戦略まで～」をテーマに田中創先生(福岡整形外科病院 リハビリテーション科)、井上雅之先生(愛知医科大学 運動療育センター・学際的痛みセンター)、吉田彬人先生(名古屋大学大学院医学系研究科 リハビリテーション療法学)に話題提供して頂き、各疾患の術後遷延性疼痛に関して、その特性や今後の課題などを議論いたします。シンポジウム2は「難治性疼痛への挑戦～適応と限界そして次の挑戦へ～」とし、井関雅子先生(順天堂大学医学部 麻酔科学・ペインクリニック講座)、下和弘先生(神戸学院大学 総合リハビリテーション学部)、江草典政先生(島根大学医学部附属病院 リハビリテーション部)、許山勝弘先生(福岡リハビリテーション病院 リハビリテーション部)に話題提供いただき、今分かっている適応と限界及び今後の課題を議論したいと思います。教育講演では、西上智彦先生(県立広島大学 保健福祉学部)、今村寿宏先生(九州労災病院 勤労者骨・関節疾患治療研究センター脊椎外科)、平瀬達哉先生(長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科)にご登壇いただき、ペインリハビリテーションの実践にあたり必要となる知識をご提供いただきます。さらに一般演題では、全て口述演題としたうえで110演題が採択されております。是非とも積極的な議論と情報交換の場となればと思います。

昨今の新型コロナウイルス感染症対策のため、オンライン開催と変更致しましたが充実した議論ができるよう準備しております。多数の皆様にご参加いただき、有意義で実ある学術大会となりますことを心よりお願い申し上げます。

最後となりますが、本学術大会の運営にご尽力いただきました運営委員ならびに理事・代議員の先生方、また、本学術大会の趣意にご賛同いただき多大なるご支援を賜りました後援企業の方々に深謝致します。

謹 白

運営委員 (敬称略, 順不同)

松原 貴子 (神戸学院大学)
沖田 実 (長崎大学大学院)
森岡 周 (畿央大学大学院)
坂本 淳哉 (長崎大学大学院)
城 由起子 (名古屋学院大学)
西上 智彦 (県立広島大学)
坂野 裕洋 (日本福祉大学)
平川 善之 (福岡リハビリテーション病院)
大住 倫弘 (畿央大学)
片岡 英樹 (長崎記念病院)
井上 雅之 (愛知医科大学)
田中 創 (福岡整形外科病院)
許山 勝弘 (福岡リハビリテーション病院)

査読委員 (敬称略, 順不同)

松原 貴子 (神戸学院大学)	大友 篤 (仙台ペインクリニック)
森岡 周 (畿央大学大学院)	沖田 実 (長崎大学大学院)
城 由起子 (名古屋学院大学)	坂本 淳哉 (長崎大学大学院)
坂野 裕洋 (日本福祉大学)	西上 智彦 (県立広島大学)
肥田 朋子 (名古屋学院大学)	平川 善之 (福岡リハビリテーション病院)
今井 亮太 (大阪河崎リハビリテーション大学)	大住 倫弘 (畿央大学)
下 和弘 (神戸学院大学)	片岡 英樹 (長崎記念病院)
井上 雅之 (愛知医科大学)	平瀬 達哉 (長崎大学大学院)
片山 脩 (国立長寿医療研究センター)	近藤 康隆 (長崎原爆病院)
金原 一宏 (聖隷クリストファー大学)	壬生 彰 (甲南女子大学)
田中 創 (福岡整形外科病院)	大賀 智史 (神戸学院大学)
江草 典政 (島根大学医学部附属病院)	大鶴 直史 (新潟医療福祉大学)
平賀 勇貴 (国際医療福祉大学)	筒居 直美 (帝京平成大学)
佐藤 剛介 (奈良県総合リハビリテーションセンター)	土井 篤 (熊本保健科学大学大学院)
田中 克宜 (田辺整形外科上本町クリニック)	重藤 隼人 (京都橘大学)

目 次

参加者へのご案内	1
発表者へのご案内	3
大会スケジュール	5
発表演題一覧	7
プログラム	8
大会長講演	
平川 善之：難治性疼痛への挑戦	24
特別講演1	
池内 昌彦：運動器慢性疼痛の病態と治療ターゲット	28
特別講演2	
平田 仁：難治性疼痛の病態と特性	30
シンポジウム1 運動器の術後遷延性疼痛 ～病態から治療・予防戦略まで～	
田中 創：人工膝関節置換術後	34
井上 雅之：脊椎術後遷延性疼痛に対するリハビリテーション戦略	36
吉田 彬人：手外科疾患術後	38
シンポジウム2 難治性疼痛への挑戦 ～適応と限界そして次の挑戦へ～	
井関 雅子：難治性疼痛に対する医学的治療 ～ペインクリニックでの臨床を交えて～	42
下 和弘：運動療法による挑戦	44
江草 典政：ニューロリハビリテーションによる挑戦	46
許山 勝弘：行動医学的アプローチによる挑戦	48
教育講演	
西上 智彦：中枢性感作と中枢性感作症候群	52
今村 寿宏：脊椎疾患による痛みの病態と治療	54
平瀬 達哉：ロコモ・サルコペニア・フレイルと痛み	56
共催セミナー1	
矢吹 省司：運動器慢性痛の保存療法 ―運動療法と薬物療法、そして集学的治療―	60
共催セミナー2	
田中 浩一：クリニックでもできる！	
医師だけに負担をかけない多職種連携による効率的な慢性痛診療スタイル	64
IASP-JASP Pfizer Grant 特別企画	
非がん性慢性疼痛に対するオピオイド鎮痛薬の適正使用について学ぼう！	
木村 嘉之：「痛み」という症状に薬物療法は有効か	68
一般演題セッション	72
協賛企業一覧	127
定 款	128
役員・委員会委員名簿	135
投稿規程	137
編集後記	139

参加者へのご案内

■事前参加登録

第25回日本ペインリハビリテーション学会学術大会(オンライン開催)の参加およびオンデマンド配信の視聴には「事前参加登録」が必要となります。ご参加の前に事前参加登録を済ませてください。参加登録の締め切りが5月12日(水)24時迄となりますので、お早めのご登録をお願いいたします。

詳細は第25回日本ペインリハビリテーション学会学術大会ホームページ(<http://www.painreha.com/>)をご確認ください。

■参加費

一般(会 員)：7,000円

一般(非会員)：10,000円

学 生：無料(大学院生は含みません)

但：学生の場合は参加登録時に学生証の提示をお願いします。

■参加方法

- ・学術大会へのご参加には、Zoom(<https://zoom.us/jp-jp/meetings.html>)を利用できる環境が必要です。各自でご準備ください。
- ・参加者の皆様には学術大会当日の2日前までに各会場の Zoom URL をお送りしますので、その情報をもとに入室をお願い致します。Zoom URL の無断転載・流布は固くお断り致します。Zoom URL が事前に届かない場合は、恐れ入りますが学術大会事務局までご連絡をお願いします。携帯会社のメールアドレスはメールが不着になるケースが多いため、パソコンで受け取れるメールアドレスにて登録をお願いします。

※ Web 学会を利用するにあたり、最新版の Chrome, Firefox, Edge, Safari をご利用ください。Internet Explorer はご利用いただけない場合があります。

※ パソコン、スマートフォンでご利用いただけますが、パソコンの使用を推奨します。

■オンデマンド配信について

5月15日(土)、16日(日)の講演・シンポジウム(共催セミナーを除く)の記録動画と事前にご提出いただいた一般演題の発表動画は、5月22日(土)から6月6日(日)17時までオンデマンドによる配信を予定しております。学術大会事務局よりオンデマンド配信ウェブサイトの URL とオンデマンド配信視聴用の ID・パスワードを後日メールにて通知致します。

■LIVE 配信(講演・演題)へのご質問について

LIVE 配信(講演・演題)は講演および発表後に LIVE で質疑応答を受け付けます。ご質問がある場合は、ウェビナーの挙手マークをクリックしお待ちください。座長から指名がありましたらご発言ください。

■教育講演受講証の発行について

教育講演修了証の発行をご希望の方は、事前参加登録の際にお申し込みください。事前参加登録の際にお申し込みのない方でも、当日の聴講が確認されましたら受講証を発行致します。

教育講演当日の視聴確認方法：

1. 教育講演の開始直前に Zoom のチャットに視聴確認用の Google フォーム URL を記載しますので、URL をクリックしてリンクを開き、お名前、ご所属を記載の上、「○：聴講を開始します」のボタンをクリックしてください。
2. 教育講演の終了後に同様に Zoom のチャットに視聴確認用の Google フォーム URL を記載しますので、URL をクリックしてリンクを開き、お名前、ご所属を記載の上、「○：聴講を終了しました」のボタンをクリックしてください。
3. 聴講されたことが確認されましたら学術大会終了後に受講証を郵送致します。

■禁止事項

1. 講演や演題発表のすべてまたは一部を不正に電磁機器にデジタル情報として保存する行為
例) 画面のスクリーンショット、画面録画などの保存
2. 講演や演題発表で用いられた動画ファイル、PDF ファイルの不正取得・不正印刷する行為
例) 不正なソフトを用いて強制的にファイルをダウンロードする・印刷するなど
3. 講演や演題で発表された数値データやアイデアを不正に他で公表する行為
例) スライドを撮影して自分の講演で披露すること、SNS でスクリーンショットをアップして紹介することなど
4. チャット内や SNS などに発表者やその他の方の個人情報を書き込む行為
例) 発表内容から推察して症例の転院先を書き込む、連絡のために E-mail を書き込むなど
5. チャット内や SNS などに通常の学術的議論を超えた人格を否定するような誹謗中傷・非難、特定の人物・組織の信用を失墜させるような書き込み等を行う行為
例) ○○は馬鹿だ、○○施設では十分なリハが行われていない、△△は気に入らない
※なお、発表中のチャット内や SNS では絶対に誹謗中傷をしないようにしてください
6. その他、学術大会に関わらない情報をチャット内や SNS などに書き込む行為
例) コマーシャルのための説明・URL、個人的連絡事項

* Web に公開しているプログラム(ポスターを含む)の写真・動画撮影・録音・録画・他の Web 上コンテンツへのアップロードは、発表者の著作権保護や対象者のプライバシー保護の為、禁止させて頂きます。本学術大会で配信する動画の著作権は日本ペインリハビリテーション学会に帰属します。万が一、他の Web 上コンテンツ等への無断の転載等を発見した場合、法的処置を行います。

発表者へのご案内

■発表形式

発表はすべて LIVE 配信での口述発表となります。

優秀賞候補演題：発表時間7分，質疑応答3分

一般演題：発表時間5分，質疑応答3分

- ・学会当日に Web 会議システム「Zoom ウェビナー」にて画面共有の上，ご自身で発表いただきます。

- ・学会期間中は LIVE 配信，学会後はオンデマンド配信となります。

※学会当日のトラブル対応と学会後のオンデマンド配信に備えて，動画データをご提出いただきます。

※オンデマンド配信では，学術大会当日の発表の録画ではなく，事前にご提出いただいた動画データがオンデマンド配信されます。

【オンデマンド配信期間】

- ・学会終了後2週間(2021年5月22日～6月6日を予定)

■口述発表の注意点

- ・ Web 会議システム「Zoom ウェビナー」をご利用いただきます。
- ・発表者は該当のセッション時，パネリストとして参加します。
- ・担当セッション開始予定時刻の30分前までに事前にご案内します Zoom URL よりアクセスください。
- ・アクセス後，パスコードとお名前，メールアドレスを入力してください。
- ・マイク，カメラ，画面共有が使用できるか確認してください。
- ・使用していないアプリケーションは完全に終了してください。
- ・口述発表，質疑応答，討論を含めて時間内で終了するようにご協力ください。
- ・口述発表開始の際に発表スライドを画面共有して，発表者ご自身でスライド操作を行い，ご発表をお願いいたします。
- ・接続の不具合など，トラブルの発生も予想されますが，座長の指示に従い臨機応変なご対応をお願いいたします。

※安定したインターネット環境でのご参加をお願いいたします。

※動画および音声入りのスライド，PowerPoint のアニメーション機能の使用は動作保証できませんのでご承知ください。

※発言以外はマイクをミュートにするようお願いいたします。発言時はマイクのミュートが解除されているかご確認ください。

※質疑応答時にご自身の顔がよく映るよう，事前にご確認をお願いいたします。

■ご発表データ作成と提出について

- ・発表データは PowerPoint で作成したプレゼンテーションを音声付きスライドとして PowerPoint データのまま保存してアップロードしてください。
- ・音声付きスライドは発表予定セッションの発表時間に合わせて作成してください。

- ・発表データの作成方法および発表データのアップロード方法の詳細については、第25回日本ペインリハビリテーション学会学術大会ホームページ(<http://www.painreha.com/>)に掲載の発表スライド作成マニュアル、発表データアップロードマニュアルをご参照ください。

【発表データのアップロード期間】

- ・2021年4月15日(木)～5月6日(木)17時

■倫理上の注意

1. ヘルシンキ宣言に沿った研究であることを確認してください。
2. 発表演題に対する倫理的配慮を発表内に含めてください。
3. 特にプライバシーや人体に影響を与える研究に関しては、対象者に説明と同意を得たことをスライドもしくはポスター内に明記してください。

■利益相反の開示について

1. 第25回日本ペインリハビリテーション学会学術大会での発表者は、スライド内に利益相反の有無および利益相反がある場合には企業名を提示してください。
2. 発表スライドの2枚目に、別に定める(様式1)(<http://japr.hp4u.jp/COI>)より、利益相反に関する報告事項を開示してください。
3. なお、利益相反に関する報告すべき事項がある場合は、(様式2)(<http://japr.hp4u.jp/COI>)を抄録と共に学術大会事務局(25info@painreha.com)まで事前に提出してください。

第26回日本ペインリハビリテーション学会学術大会

会 期：2022年6月11日(土)・12日(日)

会 場：神戸学院大学ポートアイランドキャンパス(神戸市)

大 会 長：松原 貴子(神戸学院大学 総合リハビリテーション学部)

準備委員長：下 和弘(神戸学院大学 総合リハビリテーション学部)

大会事務局：神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 松原研究室内

E-mail：japr26@painreha.com

1日目 2021年5月15日(土)

	第1会場 Zoom 1	第2会場 Zoom 2	第3会場 Zoom 3	第4会場 Zoom 4
9:00	9:00～ 受付開始			
	9:25～9:30 大会長挨拶			
10:00	9:30～10:45 教育講演 1. 中枢性感作と中枢性感作症候群 座長：坂野 裕洋 講師：西上 智彦 2. 脊椎疾患による痛みの病態と治療 座長：片岡 英樹 講師：今村 寿宏 3. ロコモ・サルコペニア・フレイルと痛み 座長：片山 脩 講師：平瀬 達哉			
11:00	10:50～11:10 大会長講演 難治性疼痛への挑戦 座長：松原 貴子 講師：平川 善之	11:20～12:20 一般演題 1 評価 -1 O1-1～O1-7 座長：西上 智彦 田中 克宜	11:20～12:20 一般演題 4 治療 -1 O4-1～O4-7 座長：城 由起子 片山 脩	11:20～12:20 一般演題 7 病態・疫学 O7-1～O7-6 座長：片岡 英樹 田中 創
12:00				
13:00	12:30～13:30 共催セミナー 1 運動器慢性疼痛の保存療法 —運動療法と薬物療法、そして集学的治療— 座長：松原 貴子 講師：矢吹 省司 共催：塩野義製薬株式会社			
14:00		13:40～14:40 一般演題 2 評価 -2 O2-1～O2-7 座長：壬生 彰 重藤 隼人	13:40～14:40 一般演題 5 治療 -2 O5-1～O5-7 座長：大住 倫弘 後藤 響	13:40～14:40 一般演題 8 治療 -4 O8-1～O8-6 座長：井上 雅之 田中 陽一
15:00	14:45～15:45 優秀賞候補演題 E-1～E-6 座長：肥田 朋子 坂野 裕洋			
16:00		15:50～16:50 一般演題 3 評価 -3 O3-1～O3-7 座長：今井 亮太 服部 貴文	15:50～16:50 一般演題 6 治療 -3 O6-1～O6-7 座長：大賀 智史 近藤 康隆	15:50～16:50 一般演題 9 評価 -4 O9-1～O9-7 座長：西 祐樹 山口 修平
17:00	17:00～18:10 シンポジウム 1 運動器の術後遷延性疼痛 ～病態から治療・予防戦略まで～ 座長：坂本 淳哉 西上 智彦	人工関節置換術後 シンポジスト：田中 創 脊椎術後遷延性疼痛に対する リハビリテーション戦略 シンポジスト：井上 雅之 手外科疾患術後 シンポジスト：吉田 彬人		
18:00				
19:00	18:30～19:30 IASP-JASP Pfizer Grant 企画 非がん性慢性疼痛に対するオピオイド鎮痛薬の 適正使用について学ぼう! 『痛み』という症状に薬物療法は有効か 座長：井関 雅子 講師：木村 嘉之			

2日目 2021年5月16日(日)

	第1会場 Zoom 1	第2会場 Zoom 2	第3会場 Zoom 3	第4会場 Zoom 4
8:00	8:20～ 受付開始			
9:00		8:50～9:50 一般演題 10 評価-5 O10-1～O10-7 座長：下 和弘 小田 翔太	8:50～9:50 一般演題 13 治療-5 O13-1～O13-7 座長：出口 直樹 平瀬 達哉	
10:00	10:00～11:00 特別講演 1 運動器慢性疼痛の病態と治療ターゲット 座長：平川 善之 講師：池内 昌彦			
11:00		11:10～11:50 一般演題 11 基礎-1 O11-1～O11-5 座長：筒居 直美 薦田 昭宏	11:10～11:50 一般演題 14 基礎-1 O14-1～O14-5 座長：坂本 淳哉 佐々木 遼	11:10～11:50 一般演題 16 治療・その他 O16-1～O16-5 座長：佐藤 剛介 島原 範芳
12:00	11:55～12:55 共催セミナー 2 クリニックでもできる! 医師だけに負担をかけない 多職種連携による効率的な慢性痛診療スタイル 座長：牛田 享宏 講師：田中 浩一 共催：第一三共株式会社			
13:00	13:05～14:05 特別講演 2 難治性疼痛の病態と特性 座長：森岡 周 講師：平田 仁			
14:00		14:10～14:50 一般演題 12 病態・評価・疫学 O12-1～O12-5 座長：大友 篤 大鶴 直史	14:10～14:50 一般演題 15 基礎-2 O15-1～O15-4 座長：土井 篤 本田 祐一郎	14:10～14:50 一般演題 17 疫学・その他 O17-1～O17-5 座長：金原 一宏 会田 記章
15:00	15:00～16:30 シンポジウム 2 難治性疼痛への挑戦 ～適応と限界そして次の挑戦へ～ 座長：松原 貴子、平川 善之 難治性疼痛に対する医学的治療 ～ペインクリニックでの臨床を交えて～ シンポジスト：井関 雅子 運動療法による挑戦 シンポジスト：下 和弘 ニューロリハビリテーションによる挑戦 シンポジスト：江草 典政 行動医学的アプローチによる挑戦 シンポジスト：許山 勝弘			
16:00				
17:00	16:40～17:10 次期大会長挨拶ならびに表彰式・閉会の辞 松原 貴子			
18:00				

発表演題一覧

■学会優秀賞について

第25回日本ペインリハビリテーション学会学術大会におきましては学会優秀賞として、最優秀賞1名、優秀賞2名を選出いたします。

〈学会優秀賞候補演題〉

E-1 西 祐樹 畿央大学大学院 健康科学研究科 神経リハビリテーション学研究室

慢性腰痛者における歩行時の体幹運動制御の変調は環境に依存する
—非線形解析を用いて—

E-2 本田 祐一郎 長崎大学 生命医科学域(保健学系)

変形性股・膝関節症患者に対する運動療法と患者教育の効果：
身体活動量と痛みをアウトカムとした定量的システマティックレビュー

E-3 片岡 英樹 社会医療法人 長崎記念病院

脊椎圧迫骨折患者に対する行動医学的介入を併用した
リハビリテーションの効果検証 — 無作為化比較試験

E-4 古賀 優之 医療法人協和会 協和会病院

中枢性感作関連症状は軽度疼痛症例の転帰に影響する
—横断・縦断的研究から—

E-5 田中 貴子 長崎大学 生命医科学域(保健学系)

慢性疼痛を有する慢性閉塞性肺疾患患者の臨床的特徴

E-6 林田 一輝 畿央大学大学院 健康科学研究科 神経リハビリテーション学研究室

他者に強制された行為に伴う痛みは行為主体感を減弱させる

プログラム

大会長講演

5月15日(土) 10:50～11:10 第1会場

難治性疼痛への挑戦

座長：松原 貴子 神戸学院大学 総合リハビリテーション学部

講師：平川 善之 福岡リハビリテーション病院 リハビリテーション部

特別講演1

5月16日(日) 10:00～11:00 第1会場

SL-1 運動器慢性疼痛の病態と治療ターゲット

座長：平川 善之 福岡リハビリテーション病院 リハビリテーション部

講師：池内 昌彦 高知大学 医学部 整形外科

特別講演2

5月16日(日) 13:05～14:05 第1会場

SL-2 難治性疼痛の病態と特性

座長：森岡 周 畿央大学大学院 健康科学研究科

講師：平田 仁 名古屋大学大学院 医学系研究科 総合医科学専攻
運動・形態外科学 人間拡張・手の外科学

シンポジウム1

5月15日(土) 17:00～18:10 第1会場

座長：坂本 淳哉(長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科)

西上 智彦(県立広島大学 保健福祉学部)

[運動器の術後遷延性疼痛 ～病態から治療・予防戦略まで～]

S1-1 人工膝関節置換術後

田中 創

福岡整形外科病院 リハビリテーション科

愛知医科大学大学院 医学研究科 臨床医学系専攻 統合疼痛医学教室

S1-2 脊椎術後遷延性疼痛に対するリハビリテーション戦略

井上 雅之 愛知医科大学 運動療育センター・学際的痛みセンター

S1-3 手外科疾患術後

吉田 彬人 名古屋大学大学院 医学系研究科 リハビリテーション療法学

シンポジウム2

5月16日(日) 15:00～16:30 第1会場

座長：松原 貴子(神戸学院大学 総合リハビリテーション学部)

平川 善之(福岡リハビリテーション病院 リハビリテーション部)

[難治性疼痛への挑戦 ～適応と限界そして次の挑戦へ～]**S2-1 難治性疼痛に対する医学的治療 ～ペインクリニックでの臨床を交えて～**

井関 雅子 順天堂大学 医学部 麻酔科学・ペインクリニック講座

S2-2 運動療法による挑戦

下 和弘 神戸学院大学 総合リハビリテーション学部

S2-3 ニューロリハビリテーションによる挑戦

江草 典政 島根大学医学部附属病院 リハビリテーション部

S2-4 行動医学的アプローチによる挑戦

許山 勝弘 福岡リハビリテーション病院 リハビリテーション部

教育講演

5月15日(土) 9:30～10:45 第1会場

EL-1 中枢性感作と中枢性感作症候群

座長：坂野 裕洋 日本福祉大学 健康科学部

講師：西上 智彦 県立広島大学 保健福祉学部 理学療法学科

EL-2 脊椎疾患による痛みの病態と治療

座長：片岡 英樹 長崎記念病院 リハビリテーション部

講師：今村 寿宏 独立行政法人労働者健康安全機構 九州労災病院
勤労者骨・関節疾患治療研究センター

EL-3 ロコモ・サルコペニア・フレイルと痛み

座長：片山 脩 国立長寿医療研究センター 老年学・社会科学研究センター

講師：平瀬 達哉 長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科

共催セミナー1 [ライブ配信のみ]

5月15日(土) 12:30～13:30 第1会場

共催：塩野義製薬株式会社

[運動器慢性痛の保存療法 —運動療法と薬物療法、そして集学的治療—]

座長：松原 貴子 神戸学院大学 総合リハビリテーション学部

講師：矢吹 省司 福島県立医科大学 保健科学部

共催セミナー2 [ライブ配信のみ]

5月16日(日) 11:55～12:55 第1会場

共催：第一三共株式会社

[クリニックでもできる！ 医師だけに負担をかけない多職種連携による効率的な慢性痛診療スタイル]

座長：牛田 享宏 愛知医科大学 医学部 学際的痛みセンター

講師：田中 浩一 医療法人社団 田中整形外科

IASP-JASP Pfizer Grant 特別企画

5月15日(土) 18:30～19:30 第1会場

[非がん性慢性疼痛に対するオピオイド鎮痛薬の適正使用について学ぼう！]

SP 「痛み」という症状に薬物療法は有効か

座長：井関 雅子 順天堂大学 医学部 麻酔科学・ペインクリニック講座

講師：木村 嘉之 獨協医科大学 医学部 麻酔科学講座

一般演題セッション プログラム

学会優秀賞候補演題

5月15日(土) 14:45～15:45 第1会場

座長：肥田 朋子(名古屋学院大学 リハビリテーション学部)
坂野 裕洋(日本福祉大学 健康科学部)

- E-1** 慢性腰痛者における歩行時の体幹運動制御の変調は環境に依存する
—非線形解析を用いて—
西 祐樹 畿央大学大学院 健康科学研究科 神経リハビリテーション学研究室
- E-2** 変形性股・膝関節症患者に対する運動療法と患者教育の効果：
身体活動量と痛みをアウトカムとした定量的システマティックレビュー
本田 祐一郎 長崎大学 生命医科学域(保健学系)
- E-3** 脊椎圧迫骨折患者に対する行動医学的介入を併用したリハビリテーションの
効果検証—無作為化比較試験
片岡 英樹 社会医療法人 長崎記念病院
- E-4** 中枢性感作関連症状は軽度疼痛症例の転帰に影響する
—横断・縦断的研究から—
古賀 優之 医療法人協和会 協和会病院
- E-5** 慢性疼痛を有する慢性閉塞性肺疾患患者の臨床的特徴
田中 貴子 長崎大学 生命医科学域(保健学系)
- E-6** 他者に強制された行為に伴う痛みは行為主体感を減弱させる
林田 一輝 畿央大学大学院 健康科学研究科 神経リハビリテーション学研究室

一般演題1 [評価 -1]

5月15日(土) 11:20～12:20 第2会場

座長：西上 智彦(県立広島大学 保健福祉学部)
田中 克宜(田辺整形外科 リハビリテーション科)

- O1-1** 肩関節周囲炎の罹患期間と中枢性感作症候群の関連性
池田 直人 医療法人将奈会 白石クリニック整形外科・内科・消化器内科
- O1-2** 人工膝関節全置換術後急性期の投薬状況が疼痛・中枢性感作症候群に及ぼす影響
田中 亜里沙 福岡整形外科病院 リハビリテーション科
- O1-3** 中枢性感作が人工股関節全置換術後1ヶ月の主観的 QOL に及ぼす影響
村上 淳也 医療法人社団高邦会 柳川リハビリテーション病院
- O1-4** 大腿骨近位部骨折術後の急性期における圧痛閾値の信頼性に関する検討
野元 祐太郎 社会医療法人 長崎記念病院 リハビリテーション部

01-5 持続的他動運動を利用した新たな時間的加重測定法が膝関節術後に与える影響
—Pressure temporal summation との比較—

内藤 卓也 福岡リハビリテーション病院

01-6 QuantiPainTM を用いた運動器慢性痛患者の痛み感受性評価

林 祥宏 高知大学医学部附属病院 リハビリテーション部

01-7 当院における人工膝関節置換術に対する評価の取り組み(短期報告)

宮前 雄治 医療法人柏愛会 林整形外科病院 リハビリテーション課

一般演題2 [評価 -2]

5月15日(土) 13:40~14:40 第2会場

座長: 壬生 彰(甲南女子大学 看護リハビリテーション学部)

重藤 隼人(京都橘大学 健康科学部 理学療法学科)

02-1 人工膝関節全置換術後の中枢性感作関連症状が遷延痛と能力障害に及ぼす影響
—予備的研究—

古賀 優之 医療法人協和会 協和会病院

02-2 人工膝関節全置換術後の急性期に強い痛みを呈する
変形性膝関節症患者の術前の特徴

盛田 日菜子 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 運動障害リハビリテーション学研究室

02-3 人工股関節全置換術前における中枢性感作と愛着障害の有無が
術後身体機能に及ぼす影響

岡澤 和哉 九州大学病院 リハビリテーション部

02-4 術後3ヶ月の人工膝関節全置換術患者における
痛みに対する破局的思考に関する検討

大西 邦博 ツカザキ病院

02-5 強い腰背部痛が残存する脊椎圧迫骨折患者の入院時の特徴に関する検討

近藤 祐太郎 社会医療法人 長崎記念病院 リハビリテーション部

02-6 肩関節鏡視下腱板修復術の遷延性術後痛に影響する術前・術後因子の検討

小山田 泰健 医療法人正明会 諸鹿整形外科クリニック

02-7 外傷性・非外傷性腱板断裂における保存的治療の疼痛と破局化による影響

鶴田 崇 南川整形外科病院 リハビリテーション部

一般演題3 [評価-3]

5月15日(土) 15:50～16:50 第2会場

座長：今井 亮太(大阪河崎リハビリテーション大学 理学療法専攻)
服部 貴文(前原整形外科リハビリテーションクリニック)

O3-1 変形性膝関節症患者の2ステップ値と疼痛関連因子の関係

野口 薫 古川宮田整形外科内科クリニック リハビリテーション科

O3-2 退院時における疼痛と身体機能の申告に解離のある人工膝関節全置換術後症例の特徴抽出の試み

岡田 紗也花 JCHO 星ヶ丘医療センター リハビリテーション部

O3-3 人工膝関節全置換術3ヶ月後の階段降段能力に影響を及ぼす因子の検討
～ Pilot study ～

嘉手苅 唯 社会医療法人 ジャパンメディカルアライアンス 座間総合病院
リハビリテーション科

O3-4 人工膝関節全置換術後の膝痛と疼痛関連因子に関する検討
—2年間の追跡調査より—

朝倉 淳弥 前原整形外科リハビリテーションクリニック リハビリテーション部

O3-5 Open wedge 高位脛骨骨切り術後の痛みに影響する術前因子について

上野 亜未 富山市立富山市民病院

O3-6 膝前十字靱帯再建術後の膝伸展筋力と術前の疼痛・恐怖心との関連
—後ろ向きコホート研究—

染川 晋作 福岡リハ整形外科クリニック リハビリテーション部

O3-7 階段降段時に痛みや運動恐怖を訴える粗面下骨切り術後患者の運動学的評価

谷口 隆憲 福岡国際医療福祉大学 医療学部 理学療法学科

一般演題4 [治療-1]

5月15日(土) 11:20～12:20 第3会場

座長：城 由起子(名古屋学院大学 リハビリテーション学部)
片山 脩(国立長寿医療研究センター 老年学・社会科学研究センター)

O4-1 急性大動脈解離術後に CRPS 症状を呈した症例
～患肢の不使用と感覚識別能力の低下に着目した介入の効果～

古賀 優之 医療法人協和会 協和会病院

O4-2 脛骨骨折後アロディニア様症状に対し免荷期間の理学療法により円滑な荷重開始に至った一症例

丸山 香 JCHO 星ヶ丘医療センター リハビリテーション部

- O4-3** 小児 CRPS に対して多職種介入によるリハビリ継続が奏効した1症例
森田 光聡 東京警察病院 リハビリテーション科
- O4-4** 脳卒中慢性期の能動的感覚再学習によって障害手の寒冷アロディニアが改善した一例
花田 恵介 医療法人穂翔会 村田病院 リハビリテーション部
- O4-5** 身体を投影した影上での接触を用いた介入により左手の自発痛が軽減した CRPS の1例
川上 隆三 福岡リハビリテーション病院 リハビリテーション部
- O4-6** 認知症を併存する慢性疼痛患者に対して可能な動作の動画視聴によるフィードバックを併用したリハビリテーションの経験
青木 秀樹 社会医療法人 長崎記念病院 リハビリテーション部
- O4-7** 多職種の介入により病態を精査し症状改善に繋がった一症例
米沢 瑞穂 医療法人社団関通会 仙台ペインクリニック

一般演題5 [治療-2]

5月15日(土) 13:40~14:40 第3会場

座長：大住 倫弘(畿央大学ニューロリハビリテーション研究センター)
後藤 響(長崎記念病院 リハビリテーション部)

- O5-1** 慢性疼痛肩の痛み・可動域制限に対して、振動刺激・識別課題を用いた介入～身体知覚異常に着目した一考察～
吉永 正悟 医療法人 西川整形外科医院
- O5-2** 右肩関節周囲炎患者の慢性的な肩の痛みに対する一考察～関節位置覚・表在感覚への識別課題による介入効果について～
鶴 阿己菜 医療法人 西川整形外科医院
- O5-3** 橈骨遠位端骨折術後3ヶ月から疼痛増悪を認めた症例に対する識別課題の効果ー疼痛の性質変化に着目してー
山本 大貴 医療法人協和会 協和会病院
- O5-4** 痛みは運動イメージトレーニングによる運動学習効果を阻害するか？
渡邊 将生 名古屋学院大学 リハビリテーション学部
- O5-5** 運動恐怖を抱く慢性腰痛患者に対する Virtual Reality を用いた新たな運動療法ー1症例による検討ー
今井 亮太 大阪河崎リハビリテーション大学 理学療法学専攻
- O5-6** TKA 後, HAL-SJ の使用は遷延性疼痛の発症を抑制する
野崎 壮 医療法人オアシス 福岡志恩病院

O5-7 術後痛に対する自己記入式質問票を用いた多面的介入
～全人工膝関節置換術後の2症例～

清浦 康平 医療法人博仁会 福岡リハビリテーション病院

一般演題6 [治療-3]

5月15日(土) 15:50～16:50 第3会場

座長：大賀 智史(神戸学院大学 総合リハビリテーション学部)

近藤 康隆(日本赤十字社 長崎原爆病院 リハビリテーション科)

O6-1 身体の左右対称部位を刺激する経皮的電気神経刺激(TENS)の
鎮痛効果に関する検討

本田 聖弥 弘前大学大学院 保健学研究科

O6-2 不動によって惹起される拘縮、痛みに対する電気刺激誘発性単収縮運動の効果

梶原 康宏 長崎大学病院 リハビリテーション部

O6-3 低強度パルス超音波フォノフォレーシス療法による痛み軽減効果の
生物学的機序の検討
—ラット膝関節炎モデルを用いた検討—

佐々木 遼 十善会病院 リハビリテーション科

O6-4 中高年の早期変形性膝関節症の疼痛及び筋力に対する全身振動トレーニングの
予備的検証
—非ランダム化比較試験—

眞鍋 匠 福岡リハ整形外科クリニック

O6-5 アイシングを併用した術後筋力トレーニングの神経筋機能への影響

小田 翔太 高知大学医学部附属病院 リハビリテーション部

O6-6 高強度インターバルトレーニングによる疼痛制御と注意機能に関する検討

堂北 絢郁 神戸学院大学大学院 総合リハビリテーション学研究科

O6-7 視覚及び聴覚 feedback を用いた足関節底屈筋の等尺性筋収縮運動が
足部・足関節骨折患者の痛みや運動機能、QOL に及ぼす影響

柿田 徹郎 社会医療法人 長崎記念病院 リハビリテーション部

一般演題7 [病態・疫学]

5月15日(土) 11:20～12:20 第4会場

座長：片岡 英樹(長崎記念病院 リハビリテーション部)

田中 創(福岡整形外科病院 リハビリテーション科)

07-1 中枢性感作症候群は痛みの重症化に影響する
—横断的研究—

重藤 隼人 畿央大学大学院 健康科学研究科 神経リハビリテーション学研究室

07-2 疼痛関連因子の重症度が疼痛の転帰に影響する
—縦断的研究—

重藤 隼人 畿央大学大学院 健康科学研究科 神経リハビリテーション学研究室

07-3 変形性股・膝関節症の荷重運動時痛の時間的加重と関節構造変化、
神経機能異常との関係

服部 貴文 神戸学院大学大学院 総合リハビリテーション学研究所

07-4 人工股・膝関節全置換術後における術後痛と機能障害の推移について

池村 明里 石川病院 リハビリテーション部

07-5 高位脛骨骨切り術における術後遷延痛患者の身体的特徴

隅田 涼平 福岡整形外科病院 リハビリテーション科

07-6 人工股関節全置換術後の慢性術後疼痛に関する後方視調査

坂本 有希倫 長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 理学療法学分野

一般演題8 [治療-4]

5月15日(土) 13:40～14:40 第4会場

座長：井上 雅之(愛知医科大学 運動療育センター・学際的痛みセンター)

田中 陽一(奈良県総合リハビリテーションセンター)

08-1 自己管理教育により疼痛軽減が見られた成人脳性麻痺症例

津本 要 医療法人 博仁会 福岡リハビリテーション病院 リハビリテーション部

08-2 足底装具の長期使用が新たな痛みを発症し身体変化に合わせた
適切な患者説明が重要であった症例

足立 功浩 社会福祉法人 聖隷福祉事業団 総合病院 聖隷三方原病院

08-3 破局的思考により活動量低下がみられた高位脛骨骨切り術後の症例に対し
活動日記を用いた作業療法実践
～患者に合わせた活動日記の導入と改変～

小嶋 菜緒子 医療法人 博仁会 福岡リハビリテーション病院

- O8-4** 心理社会的疼痛が疑われた精神疾患を合併した症例に対する「痛み・活動日記」を用いた介入
佐藤 剛介 奈良県総合医療センター リハビリテーション部
- O8-5** ADHD を併存した慢性全身痛と右上肢挙上困難に対して、理学療法士による行動科学的リハビリテーションツールが奏功した一症例
室井 典子 順天堂大学医学部附属順天堂医院 リハビリテーション室
- O8-6** 慢性疼痛患者に対する集団認知行動療法プログラムによる介入効果について
西川 正悟 社会医療法人友愛会 豊見城中央病院 リハビリテーション科

一般演題9 [評価-4]

5月15日(土) 15:50～16:50 第4会場

座長：西 祐樹(畿央大学大学院 健康科学研究科 神経リハビリテーション学研究室)
山口 修平(済衆館病院 リハビリテーション科)

- O9-1** 腰椎椎体間固定術後における体幹前屈動作に関わる因子とは？
多々良 大輔 医療法人オアシス 福岡志恩病院 リハビリテーション部
- O9-2** 人工膝関節全置換術前の運動イメージ能力が術後の疼痛、身体機能に及ぼす影響—術後短期成績の報告—
中島 爽牙 座間総合病院 リハビリテーション科
- O9-3** 変形性膝関節症患者における身体知覚異常には疼痛部位の圧痛閾値や2点識別覚が関与する
田中 創 福岡整形外科病院 リハビリテーション科
- O9-4** 鏡視下腱板修復術における術前の機能障害に影響を及ぼす因子の検討
鈴木 佑介 医療法人松田会 松田病院 スポーツ整形外科・関節鏡センター リハビリテーション部
- O9-5** 変形性膝関節症患者の疼痛強度に影響する要因～膝・下肢アライメントと痛み関連因子による調査～
田中 努 福岡整形外科病院 リハビリテーション科
- O9-6** 四肢切断患者の幻肢痛と運動イメージ能力の関係性
上銘 峻太 兵庫県立リハビリテーション中央病院 リハビリ療法部
- O9-7** 人工膝関節全置換術と人工股関節全置換術における遷延性術後痛の特徴
大段 喬 福岡整形外科病院 リハビリテーション科

一般演題10 [評価-5]

5月16日(日) 8:50~9:50 第2会場

座長：下 和弘(神戸学院大学 総合リハビリテーション学部)

小田 翔太(高知大学医学部附属病院 リハビリテーション部)

O10-1 肩関節周囲炎患者と夜間痛

～中途覚醒が疼痛関連因子へ与える影響～

松本 伸一 医療法人順成堂 古川宮田整形外科内科クリニック

O10-2 腰痛有訴者における作業関連動作時の体幹運動制御障害に関連する要因分析

藤井 廉 畿央大学大学院健康科学研究科 神経リハビリテーション学研究室

O10-3 慢性疼痛患者の破局的思考は、ADL 制限と不安が影響する

有蘭 信一 聖隷クリストファー大学 大学院リハビリテーション科学研究科

O10-4 脳卒中後片麻痺患者における移動手段・能力と疼痛関連因子の関係

小笠原 舞 社会医療法人 近森会 近森リハビリテーション病院

O10-5 母指 CM 関節症患者における手指タッピング動作時の定量的評価の試み

ー疼痛・運動恐怖に着目して:Pilot studyー

栗木 康介 福岡整形外科病院 リハビリテーション科

O10-6 短縮版 Örebro musculoskeletal screening questionnaire (OMSQ-12) を用いた心理的因子のスクリーニングの検討

菊池 智也 医療法人社団 昌樹会 ウツミ整形外科医院

O10-7 胸腰椎椎体骨折患者における離床開始時の精神・身体機能が自立歩行獲得に及ぼす影響

久木 貴寛 JA 静岡厚生連 遠州病院

一般演題11 [評価・その他]

5月16日(日) 11:10~11:50 第2会場

座長：筒居 直美(帝京平成大学 健康医療スポーツ学部)

薦田 昭宏(海里マリン病院 リハビリテーション科)

O11-1 人工膝関節全置換術後の遷延性疼痛と JKOM の関係

森口 晃一 一寿会 西尾病院

O11-2 高位脛骨骨切り術を施行した患者における術前後アライメントの変化および運動機能の回復に基づくサブグループと術後早期の歩行痛および側方加速度

出口 直樹 福岡リハビリテーション病院

O11-3 妊婦における腰痛骨盤痛と筋肉量との関連について

林 勝仁 国立病院機構 長崎医療センター

O11-4 高位脛骨骨切り術を施行した患者の術後5週の疼痛に関与する術前のアライメント、関節動揺、運動機能の検討

宮地 高大 医療法人博仁会 福岡リハビリテーション病院

O11-5 高位脛骨骨切り術患者における、術前の膝・足部アライメントおよび筋力が、術前および術後5週の歩行時痛に及ぼす影響

清浦 康平 医療法人博仁会 福岡リハビリテーション病院

一般演題12 [病態・評価・疫学]

5月16日(日) 14:10~14:50 第2会場

座長：大友 篤(仙台ペインクリニック)

大鶴 直史(新潟医療福祉大学 医療技術学部)

O12-1 高齢者大腿骨近位部骨折の術後痛は実運動能力と運動イメージ能力のいずれの影響を受けるか

山口 修平 済衆館病院 リハビリテーション科

O12-2 脳卒中後 CRPS タイプⅠの疼痛発症・重症度に対する麻痺側上肢および全身の活動性の影響桂 祐一 医療法人えいしん会 岸和田リハビリテーション病院
リハビリテーションセンター**O12-3** 当院における人工膝関節全置換術後の慢性術後痛に関する調査—発生率および患者の特徴について—

近藤 康隆 日本赤十字社 長崎原爆病院

O12-4 前十字靱帯再建術後6ヵ月時における動作時痛の有無には身体知覚異常が影響する

藤田 慎矢 福岡整形外科病院 リハビリテーション科

O12-5 大腿骨近位部骨折術後患者の回復期初期の身体活動量と疼痛・身体機能経過との関係

中藺 良太 医療法人藤井会藤井会 リハビリテーション病院 リハビリテーション部

一般演題13 [治療-5]

5月16日(日) 8:50~9:50 第3会場

座長：平瀬 達哉(長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科)

出口 直樹(福岡リハビリテーション病院 リハビリテーション部)

O13-1 人工膝関節全置換術後の集団患者教育に関するアンケート調査
—KH Coder を用いた計量テキスト分析—

小松 雅明 我汝会えにわ病院 リハビリテーション科

O13-2 慢性腰痛を有した左脛骨高原骨折術後患者に対し
運動療法と患者教育を行い自宅退院を目指した一症例

富山 柚果 JCHO 星ヶ丘医療センター リハビリテーション部

O13-3 疼痛律動性と身体活動量の関係に着目した患者教育の効果：症例報告

田中 陽一 畿央大学大学院 健康科学研究科 神経リハビリテーション学研究室

O13-4 疼痛は認知症高齢者の運動療法効果による日常生活活動の改善効果を妨げるか

中田 健太 池田リハビリテーション病院 リハビリテーション部

O13-5 運動誘発性鎮痛の修飾因子について

丹羽 祐斗 神戸学院大学大学院 総合リハビリテーション学研究所

O13-6 亜急性期の開腹術後疼痛に対し教育と運動療法の併用介入により
慢性術後疼痛への移行を防ぐことが可能であった一症例

井上 雅之 愛知医科大学 運動療育センター

O13-7 回復期リハ病棟入院中の高齢運動器疾患患者に対する患者教育の試み山田 良 医療法人えいしん会 岸和田リハビリテーション病院
リハビリテーションセンター

一般演題14 [基礎-1]

5月16日(日) 11:10~11:50 第3会場

座長：坂本 淳哉(長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科)

佐々木 遼(十善会病院 リハビリテーション科)

O14-1 脊椎圧迫骨折患者における conditioned pain modulation を用いた
予後予測に関する検討

森 朋也 医療法人宏和会 あさい病院 リハビリテーション科

O14-2 継続的な歩行運動により膝 OA 惹起後の痛みが軽度となるメカニズムの検討
—動物モデルを用いた基礎的検討—

宮原 祥汰 長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 保健学専攻 理学療法学分野

O14-3 Conditioned Pain Modulation と条件刺激の嗜好性によるクラスタリング： 予備的検討

寺澤 雄太 畿央大学大学院 健康科学研究科 神経リハビリテーション学研究室

O14-4 Conditioned pain modulation による中枢性疼痛調節系のメカニズム解析の試み

加藤 翔 尼崎だいもつ病院 リハ技術部

O14-5 末梢神経線維種別の DNIC 応答性について

下 和弘 神戸学院大学 総合リハビリテーション学部

一般演題15 [基礎-2]

5月16日(日) 14:10～14:50 第3会場

座長：土井 篤(熊本保健科学大学大学院 リハビリテーション領域)

本田 祐一郎(長崎大学生命医科学域(保健学系))

O15-1 有酸素運動(AE)と経皮的電気神経刺激(TENS)の同時施行が 痛覚閾値に及ぼす影響

工藤 遼太 医療法人 雄心会 青森新都市病院

O15-2 不活動性筋痛に対するベルト電極式骨格筋電気刺激の効果

大賀 智史 神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 理学療法学科

O15-3 低出力レーザー療法がラット膝関節炎の腫脹や痛みにおよぼす影響

沖田 星馬 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 運動障害リハビリテーション学研究室

O15-4 低強度の筋収縮運動がラット末期変形性膝関節症モデルの痛みにおよぼす影響

本川 智子 長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 保健学専攻 理学療法学分野

一般演題16 [治療・その他]

5月16日(日) 11:10～11:50 第4会場

座長：佐藤 剛介(奈良県総合医療センター リハビリテーション部)

島原 範芳(道後温泉病院 リハビリテーション部)

O16-1 S 状結腸穿孔に対する緊急手術を施行し、 心身機能の低下と術後遷延痛を呈した症例

成瀬 宏司 医療法人 医仁会 さくら総合病院

O16-2 疼痛部位の誤認や運動恐怖が慢性腰痛に影響していた症例 ～ Pain Neuroscience Education や腰部への識別課題により 能力障害が改善した一例～

小川 拓郎 医療法人 社団 楓会 林病院

O16-3 セラピスト管理下での活動促進プログラムを併用したリハビリテーションが有効であった大腿骨転子部骨折の一症例

後藤 響 長崎記念病院 リハビリテーション部

O16-4 12年間に3回の腰椎手術を施行した Failed back surgery syndrome 症例—疼痛教育を用いた理学療法が有効であった介入の経験—

山下 浩史 医療法人社団伯瑛会 のぞみ整形外科クリニック西条 セラピスト部

O16-5 強い術後痛の訴えにより膝関節可動域獲得に難渋した大腿骨内顆陥没骨折患者の一例

多久和 良亮 JCHO 星ヶ丘医療センター リハビリテーション部

一般演題17 [疫学・その他]

5月16日(日) 14:10~14:50 第4会場

座長：金原 一宏(聖隷クリストファー大学 リハビリテーション学部)

会田 記章(順天堂大学医学部附属順天堂医院 リハビリテーション室)

O17-1 地域在住高齢者における疼痛の数と神経障害性疼痛(侵害可塑性疼痛)の関連

齊藤 貴文 麻生リハビリテーション大学校 理学療法学科

O17-2 地域住民における痛みが COVID-19 流行に伴う身体活動量の変化におよぼす影響

平瀬 達哉 長崎大学生命 医科学域・保健学系

O17-3 当院ペインクリニック外来理学療法受診動向の調査

牛田 健太 三重大学大学院 医学系研究科 麻酔集中治療学

O17-4 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)流行下における骨粗鬆症患者に対する運動指導の必要性

和田 伸 九州労災病院 門司メディカルセンター 中央リハビリテーション部

O17-5 地域高齢者に対する運動の習慣化が疼痛・身体機能に及ぼす効果について

永江 槇一 医療法人和仁会 和仁会病院

大会長講演

〔 難治性疼痛への挑戦 〕

座長：松原 貴子（神戸学院大学 総合リハビリテーション学部）

講師：平川 善之（福岡リハビリテーション病院 リハビリテーション部）

大会長講演

難治性疼痛への挑戦

平川 善之

福岡リハビリテーション病院 リハビリテーション部

本学術大会のテーマである「難治性疼痛への挑戦」の「挑戦」とは、痛みの難治化への予防と、不幸にも難治化した痛みへの対策の2つの意味を込めている。患者の抱える痛みの難治化を、如何により早期に察知し予防できるか、そして難治化した痛みに如何に適切な対策を講じられるか、これらが我々に課された重要な課題であると考えたからである。

ところで、昨年、国際疼痛学会(IASP)より痛みの定義が改定されたことは周知のことであろう。同時に痛みの定義に付記されている注釈(note)も改訂され6つの項目が含まれている。ここではこの中の2項目を取り上げたい。「痛みは常に個人的な経験であり、生物学的、心理的、社会的要因によって様々な程度で影響を受けます」「個人は人生での経験を通じて、痛みの概念を学びます」である。

前者においては、痛みには多面性がある事を示している。生物学的・心理学的・社会的要因が挙げられているが、こうした要因に含まれる詳細な項目については、これまでの当学術大会においても多くの知見が出され、評価方法や治療方法などの対策も一定の効果が報告され、evidenceとして蓄積されつつある。一方で、後者においては、痛みは個人の経験を通じて高度に個別性をもってnarrativeに概念化されることが示されている。こうしたことから、痛みの難治化に対する予防と対策に任ずる我々医療者には、広く痛みに関与する要因の評価や治療方法に関するevidenceを知り、そして個々の患者の持つ痛みに関与するnarrativeな物語を把握した上で、評価と治療の立案をはかる臨床姿勢が望まれる。

本講演では、こうした事をふまえ、難治性疼痛に挑戦するための課題と、我々の果たすべき役割について考えてみたい。



略 歴

【学 歴】

- 1995年3月 九州リハビリテーション大学校 理学療法学科 卒業
 2007年3月 国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 修了(保健医療学修士)
 2014年9月 畿央大学大学院 健康科学研究科博士課程 修了(健康科学博士)

【職 歴】

- 1995年4月 労働福祉事業団 横浜労災病院 リハビリテーション部
 2002年4月 医療法人博仁会 福岡リハビリテーション病院 リハビリテーション部

【受賞歴】

- 2016年12月 第9回日本運動器疼痛学会 ポスター優秀賞
 2018年10月 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 JOSKAS 膝賞
 2019年9月 第24回日本ペインリハビリテーション学会学術大会 優秀賞

【その他(社会活動や著書など)】

社会活動

- 一般社団法人 日本ペインリハビリテーション学会 理事
 一般社団法人 日本運動器疼痛学会 代議員

著書・論文

- ・「人工膝関節全置換術の理学療法」文光堂 分担執筆
- ・「脳とこころから考えるペインリハビリテーション」杏林書院 分担執筆
- ・Hirakawa Y, Hara M, Fujiwara A, Hanada H, Morioka S. The relationship among psychological factors, neglect-like symptoms and postoperative pain after total knee arthroplasty. Pain Res Manag. 2014; 19 (5): 251-6
- ・平川善之, 藤原明, 花田弘文, 原道也, 野尻圭吾. 「Open-wedge HTO 術後の痛みを予測する術前因子の検討」. JOSKAS Vol 43: 781-86, 2018
- ・平川善之, 藤原明, 花田弘文, 原道也. 「高位脛骨骨切り術後患者に対する疼痛の軽減を目的とした患者教育の効果は年齢によって異なる」. JOSKAS Vol 45: 707-11, 2020
- ・Hirakawa Y, Fujiwara A, Imai R, Hiraga Y, Morioka S. Clinical Intervention Using Body Shadows for a Patient with Complex Regional Pain Syndrome Who Reported Severe Pain and Self-Disgust Toward the Affected Site: A Case Report. J Pain Res. 2020 May 6; 13: 971-977.

[illegible]

一般演題セッション

E-1 慢性腰痛者における歩行時の体幹運動制御の変調は環境に依存する—非線形解析を用いて—

○西 祐樹¹⁾²⁾, 重藤 隼人¹⁾, 藤井 廉¹⁾, 大住 倫弘¹⁾³⁾, 森岡 周¹⁾³⁾

1)畿央大学大学院 健康科学研究科
神経リハビリテーション学研究室

2)西大和リハビリテーション病院

3)畿央大学 ニューロリハビリテーション研究センター

【緒言】慢性腰痛における運動制御の変調は、痛みを助長させることが知られている。本研究では、慢性腰痛者における歩行時の体幹運動制御を実験環境及び日常生活環境で評価し、比較した。

【方法】慢性腰痛者20名及び健康者20名を対象とし、3軸加速度計を実験環境と日常生活環境3日間、腰部に装着し計測した。加速度データから歩行を抽出し、前後・左右軸からマルチスケールエントロピー(MSE)と最大リヤプノフ指数(LyE)を算出した。前者を運動制御におけるばらつき、後者を安定性の変数として用いた。統計処理は二元配置分散分析及びピアソンの積率相関係数を用いた(有意水準5%)。

【結果】MSEは左右軸において環境及び群間で主効果を認めた。LyEは前後軸で環境及び群間の主効果を示した。日常生活環境のみ、上記の体幹運動制御の変調と痛みのNRS, TSK, RMDQに有意な相関関係を認めた。

【結語】慢性腰痛者の歩行は、非構造的な日常生活環境での体幹運動のばらつきが大きく、安定性が低下しており、前後軸・左右軸で異なる制御を示した。加えて、これらは歩行時の痛みや恐怖と関連することから、日常生活での摂動に対する不安定な制御は、腰部へのストレスを増加させ、腰痛を助長させる可能性が示唆された。以上から、本研究は腰痛の予防や病態把握における日常生活環境での歩行の質的評価の重要性を明示した。

キーワード：慢性腰痛，歩行，運動制御

E-2 変形性股・膝関節症患者に対する運動療法と患者教育の効果：身体活動量と痛みをアウトカムとした定量的システマティックレビュー

○本田 祐一郎¹⁾²⁾, 佐々木 遼²⁾, 大賀 智史²⁾, 田中 なつみ²⁾, 梶原 康宏²⁾, 沖田 星馬²⁾, 後藤 響²⁾, 片岡 英樹²⁾, 坂本 淳哉¹⁾²⁾, 沖田 実¹⁾²⁾

1)長崎大学 生命医科学域(保健学系)

2)長崎大学大学院 運動障害リハビリテーション学研究室

【緒言】変形性股・膝関節症(股・膝OA)患者における身体活動量の向上は痛みの軽減をもたらすと報告されている。一方、国際変形性関節症学会のエクスパートコンセンサスでは運動療法や患者教育が股・膝OA患者に対する第一選択治療に位置づけられている。しかし、これらの介入が身体活動量の向上や痛みの軽減に有効かは明らかになっていない。そこで、本研究では定量的システマティックレビューにて上記の点を検証した。

【方法】保存療法が適用されている股・膝OA患者を対象とし、医学文献データベース(MEDLINE, ProQuest, Scopus, PEDro)から運動療法と患者教育の単独あるいは併用介入の効果を検証したランダム化比較試験(RCT)論文を抽出した。そして、身体活動量と痛みを評価しているRCT論文を採用し、変量効果モデルのメタアナリシスにて統合した。

【結果】運動療法と患者教育の単独あるいは併用介入の有無によって身体活動量の変化を比較した結果、併用介入のみ対照群と有意差が認められた。同様に、痛みの変化を比較した結果、運動療法の単独介入のみ対照群と有意差が認められた。

【考察】今回の結果から、運動療法と患者教育の併用介入によって股・膝OA患者の身体活動量が向上することが示唆された。併せて、運動療法は股・膝OA患者の痛みの軽減に効果的であることも示唆されたが、なぜ、患者教育との併用介入では効果がないのか、その要因については検討課題である。

キーワード：変形性股・膝関節症，身体活動量，痛み

編集委員 片岡英樹, 坂野裕洋, 今井亮太, 壬生 彰

編集後記

このたび, 「Pain Rehabilitation」第11巻2号をお届けします。この第11巻2号は, 第25回日本ペインリハビリテーション学会学術大会プログラム・抄録集となっております。

本学術大会では, 「難治性疼痛への挑戦」をテーマに掲げ, 大会長講演, 特別講演, シンポジウム, 共催セミナー, 教育講演が企画されております。また, 一般演題は110演題ものの口述発表が予定されております。本学術大会は, 昨今の新型コロナウイルス感染症対策のためオンライン開催と変更致しましたが, 会場開催と遜色なく充実した議論ができるよう準備をしております。初のオンライン開催での学術大会に多数の皆様にぜひご参加いただき, 有意義な学術大会となりますことを期待しております。

最後となりますが, 本学術大会の運営にご尽力いただきました運営委員ならびに理事・代議員の先生方, また, 本学術大会の趣意にご賛同いただき多大なるご支援を賜りました後援企業の方々に深謝致します。

(片岡 英樹)

Pain Rehabilitation 第11巻2号

令和3年(2021年)4月12日 発行

編集・発行: 一般社団法人 日本ペインリハビリテーション学会

事務局: 日本福祉大学健康科学部 リハビリテーション学科
理学療法学専攻内
〒470-0012 愛知県半田市東生見町26-2
TEL: 0569-20-0118(内線2527)

出版: 株式会社セカンド
〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F
TEL: 096-382-7793 FAX: 096-386-2025
<https://secand.jp/>